

令和7年度 山口県 英語教育改善プラン

目標

英語で自分の考えや気持ちを豊かに表現できる子どもの育成に向けて、小中高の連携を意識した言語活動の充実を視点とした授業改善を行う。

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化 (パフォーマンステスト含む)
 ☐ 教師の英語力・指導力 (専科教員含む)
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用 (AIを除く)
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①パフォーマンステストを軸にした、各授業のつながりのある評価を取り入れた単元計画を作成できる教員が増えた。
- ②目的・場面・状況の設定を行った言語活動がスタンダードになってきている。
- ③授業の中で児童が英語で発話する時間が増加してきている。

未だ改善が必要な点

- ①小中連携の実施状況について「カリキュラム設定」は継続した課題である。(R5:54.7%)
- ②単元末のパフォーマンステストと各授業の言語活動のつながりが希薄なケースが多い。
- ③教員が、自身の英語での発話に未だ戸惑いを感じている。

2. 要因分析

- ①②各種研修会を実施したことで、パフォーマンステスト等を位置付けた単元構想に基づく言語活動中心の授業実践が促進されたと考えられる。
- ③言語活動を重視し、時間を確保する授業計画、単元計画が進んできたことが要因と考えられる。

- ①カリキュラム設定を行うよさを実感できる研修や指導助言が十分ではないと考えられる。
- ②目的・場面・状況の設定を単元を貫く課題設定と関連させたような好事例の共有が不十分だと考えられる。
- ③教員が、英語を「使おう」「学ぼう」とする姿勢が重要であるという意識を十分にもっていない。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②②③各種研修会の実施
教員の授業力向上のため、参集、オンライン、ハイブリッドのいずれかの形で、以下に示す研修会などを実施する。
- <スキルアップ研修会>
 - ・小中のつながりを大切にした言語活動の在り方について
 - ・パフォーマンステストと単元構想及び言語活動の充実について
 - ・文字の適切な扱い方や指導方法について など
- <やまぐち英語教育推進連絡会（やまぐち英推連）>
 - ・英語専科教員による学習指導の充実に向けた情報共有
- <センター研修講座>
 - ・I C Tの活用に焦点を当てた講義演習
- ①指定校研究の推進
小・中・高等学校の一貫した英語教育の重要性を理解し、校種間のつながりを意識した英語教育の充実を図る。
- ・小中高合同研修会の実施
- ・公開授業研究会の実施
- ・成果物の公表 など
- <一定の英語力を有する者の新規採用に係る取組>
 - ・山口県公立学校教員採用候補者選考試験において、小学校受験者を対象とした英語資格等による加点
 - ・大学生や新規学卒採用予定者を対象とした「山口県の教師塾」
- <義務教育課ウェブサイト> <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/site/kyouiku/26847.html>

令和7年度 山口県 英語教育改善プラン

目標

英語で自分の考えや気持ちを豊かに表現できる子どもの育成に向けて、小中高の連携を意識した言語活動の充実を視点とした授業改善を行う。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R6：53.3%⇒R7：56.0%）

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☒ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①パフォーマンスを重視して授業構成を考えられる教員が増えた。
- ②目的・場面・状況を重視した言語活動の実施に努めていることが生徒の姿から感じられることが増えてきている。
- ③授業の中で生徒が英語で発話する時間が増加している。

未だ改善が必要な点

- ①小中連携の実施状況について「カリキュラム設定」は継続した課題である。
(R5:54.7%)
- ②ICTを活用した家庭学習の実施率が低い。
(R6週1回程度以上：32.6%)
- ③「英語の学習が好きか」という問いへの肯定的回答の割合について課題がある。
(R5:53.8%⇒R6:55.6%)

2. 要因分析

- ①②各種研修会を実施したことで、パフォーマンステスト等を位置付けた単元構想に基づく言語活動中心の授業実践が促進されたと考えられる。
- ③言語活動を重視し、時間を確保する授業計画、単元計画が進んできたことが要因と考えられる。

- ①カリキュラム設定を行うよさを実感できる研修や指導助言が十分ではないと考えられる。
- ②英語学習に効果的だとイメージできる家庭学習でのICT活用方法が浸透していないことが要因の一つだと考えられる。
- ③英語を使ってコミュニケーションを図れたと実感できた経験が少ないことが要因の一つだと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②③各種研修会の実施
教員の授業力向上のため、参集、オンライン、ハイブリッドのいずれかの形で、以下に示す研修会などを実施する。
- ＜スキルアップ研修会＞
 - ・小中のつながりを大切にした言語活動の在り方について
 - ・パフォーマンステストと単元構想及び言語活動の充実について
 - ・英語でコミュニケーションを図る喜びを感じられる学習課題について
 - ・各種調査問題の誤答分析について など
- ＜センター研修講座＞
 - ・技能統合型の言語活動に焦点を当てた講義演習
- ①指定校研究の推進
小・中・高等学校の一貫した英語教育の重要性を理解し、校種間のつながりを意識した英語教育の充実を図る。
 - ・小中高合同研修会の実施
 - ・公開授業研究会の実施
 - ・成果物の公表 など
- ②生成AI・学習アシスタントアプリの全県導入による支援
- ＜アセスメント＞
 - ・外部試験の実施
 - ・県独自学力調査（CBT）の実施及び結果分析

＜義務教育課ウェブサイト＞ <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/site/kyouiku/26847.html>

令和7年度 山口県 英語教育改善プラン

英語で自分の考えや気持ちを豊かに表現できる生徒の育成に向けて、小中高の連携を意識した言語活動の充実を視点とした授業改善を行う。

目標

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6 : A2以上 47.5%、B1以上 18.9% ⇒ R7 : A2以上 53.0%、B1以上 23.0%)

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有する生徒の割合が増加した。
(A2 R5:46.6% ⇒ R6:47.5%)
(B1 R5:17.9% ⇒ R6:18.9%)

②授業において50%以上の時間を言語活動に充てている教員の割合が増加した。
(R5: 37.9% ⇒ R6:44.3%)

①授業において発話の50%以上を英語で行っている教員の割合が依然として低い。
(R6目標:40.0%、実績30.4%)

②小中学校との接続・連携を意識した目標設定や授業づくりに課題があり、小中高が一体となった英語教育の改善に繋がっていない。

2. 要因分析

①パフォーマンステストの結果を踏まえて生徒の英語力を客観的に把握し、その結果を基に授業改善を図る取組が進みつつあることが要因と考えられる。

②各種研修会において言語活動の目的や重要性、具体的な実践事例等を周知・共有したことで、各校における取組が促進されたと考えられる。

①教師の英語による発話が、言語活動の充実や生徒の英語力向上に大きな影響を与えることへの認識が十分でないことが要因と考えられる。

②小中学校の英語教育の実態についての理解が進んでおらず、円滑な接続・連携のためのノウハウが十分に蓄積されていないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②①各種研修会の実施
＜センター研修講座＞
複数の領域を統合的に結び付けた言語活動に焦点を当てた講義・演習を実施することにより、「話すこと」の力を高めるための授業づくりについての理解促進を図る。
＜外国語指導助手指導力等向上研修会＞
効果的なチーム・ティーチングの在り方や、外国語指導助手を活用したパフォーマンステストの実施等についての事例発表や指導案検討等を通して、指導力・協働性の向上を図る。
- ①グローバル・リーダー育成事業の実施
(参考URL: <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/180/290762.html>)
＜短期留学支援＞
16日間の語学研修・ホームステイを通じて、英語力等の向上を図る。
＜留学フェア開催＞
有識者や留学経験者による講演・発表、留学相談会の実施等を通じて、県内中高生の留学・海外進学に向けた機運醸成を図る。
＜スタンフォードe-Yamaguchiプログラム実施＞
海外大学のオンライン講義の受講、英語でのディスカッション・プレゼンテーションを通じて、英語力や積極性等の向上を図る。
- ②校種間連携の推進
＜小中高連携英語教育推進校による授業公開等＞
県内7地域の小・中・高等学校を推進校に指定し、校種間のつながりを意識した英語教育の充実に向けた研究を行い、成果普及に努める。

目標達成状況一覧表

令和7年度様式（様式2）

山口県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	46.6	50	47.5	53		57		60		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	30	17.9	20	18.9	23		27		30		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	75	37.9	50	44.3	60		70		75		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	44.3	50	43.3	70		85		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	68.2	70		80		90		100	
		達成状況の把握(%)	100	56.1	70		80		90		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	80	82.4	83	79.6	84		85		85		
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	25.9	40	30.4	60		80		100		

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		60	51.5	54	53.3	56		58		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)		100	100	100		100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)		100	100	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	99.3	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)		50	47	50	45.6	53		53		55	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)		100	99.5	100		100		100		100	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100		100		100		100		
		公表(%)	100	99.6	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	99.6	100		100		100		100	